



包括ケア会議だより

こんにちは。笠間市地域包括支援センターです。

三寒四温の日々が続きます。風邪などひかないようご自愛ください。

さて、個別事例検討会議を3月に開催し、「認知症症状が進み支援者が困っているケース」について話し合いました。本人に関わるケアマネジャーのほか、医療専門職、社会福祉協議会等が参加しました。

☆認知症症状が進み支援者が困っているケースについて検討

認知症の夫を妻が介護する高齢者世帯です。夫は失禁が増え、外出して帰宅できないこともあるほか、自家用車を運転して事故を起こす等、認知症の進行がうかがえます。夫は内科受診を拒み、通院しません。

妻は介護負担が重く、疲弊しています。妻は、夫の入院・入所を希望する一方で、妻が居ないことで夫が不穏になることを懸念するなど、意思が曖昧です。親族が同居を試みましたが、夫が親族を認識できず怒るため、同居せず様子を見ています。

出席者からは、本人には受診が必要であ

ることを地域で把握していながら、本人が応じないことで良しとするのはいかがなものかと問題提起がありました。本人の病状悪化や交通事故等について、親族がリスクを正しく認識するためのアプローチが必要であるとの意見がありました。妻には夫との共依存関係が疑わしいことから、他の家族を巻き込むべきとの意見がありました。

包括から家族にアプローチしたうえで、まずは夫を医療につなぎ、それから要介護認定を申請し、適切なケアにつなげていく方針となりました。

＊＊令和8年2月の検討事例の経過報告＊＊

★「車の運転をやめられない独居高齢者について」

本人は変わらず車に乗っています。家族は多忙ですが、定期的に本人を訪問して様子を見守っていくと話しています。ケアマネとしても、近所の訪問ついでに寄ってみるなど、できる範囲で見守りを強化していく方針です。

＊ 検討事例募集中 ＊

困難事例でお悩みでしたら、一緒に事例検討しませんか？
下記までご連絡よろしくお願ひいたします。

